平成25年度 活動報告書

デザインの力で、きっと社会は変えられる。

［2014.08.31／01］

親と暮らせない子どもたちを支援する
特定非営利活動法人
子どもデザイン教室
Children Design Education

☎06-6698-4351
〒546-0035 大阪市東住吉区山坂4-5-1
06-6698-4352 wada@c0d0e.com
www.c0d0e.com

もくじ

序　章　はじめに……02

第1章　活動の背景と概要……03

第2章　子どもデザイン教室の活動報告……05

第3章　子どもデザインビジネスの活動報告……08

第4章　子どもサポートホームの活動報告（個人事業）ほか……10

第5章　平成25年度の活動計算書／貸借対照表／役員体制……11

第6章　平成26年度の活動計画……14

第7章　法人管理部門の活動計画……15

第8章　デザイン教室部門の活動計画……16

第9章　ファンドレイジング部門の活動計画……18

第10章　広告デザイン部門の活動計画……18

第11章　サポートホーム部門の活動計画（個人事業）……18

第12章　平成26年度の活動予算書……19

終　章　おわりに……20

デザインの力で、きっと社会は変えられる。

子どもデザイン教室の理念は親と暮らせない子どもたちが『生まれてきてよかった』と思える社会にすることです。

親の貧困や病気・虐待が原因で、親と暮らせない子どもたちは全国に約46,000人います。そのうち児童養護施設の場合、原因の約50％が虐待や育児放棄といった親の問題行動です。平成24年度の虐待件数は約66,700件になっています。こうした子どもたちの多くに、愛情不足に起因する自尊感情の低さが指摘されています。自尊感情は心身を健康に保つために必要不可欠なものです。

親と暮らせない子どもたちの多くは頼れる身寄りが少なく、お金もない状態で、基本的に18歳で措置解除（行政による養育支援の打ち切り）されます。その結果、①貧困層が自動的に形成され、②就職の困難さ、定職のなさ、③住み込みが条件などの職業の固定化、④無知ゆえの権利の剥奪や未保障、⑤「孤児、可哀想な子」といった否定的な先入観、こうした「児童養護施設出身者の社会的排除問題」が近年、社会問題となっています。

例えば、一般世帯の約77％が大学・専修学校に進学するのに対して、児童養護施設卒所者は約23％です。また、一般世帯の約11％が初任給15万円未満であるのに対して、児童養護施設卒所者は卒所後10年以下で約46％が月収15万円未満です。この問題で憂慮すべきはこうした貧困が連鎖する点です。

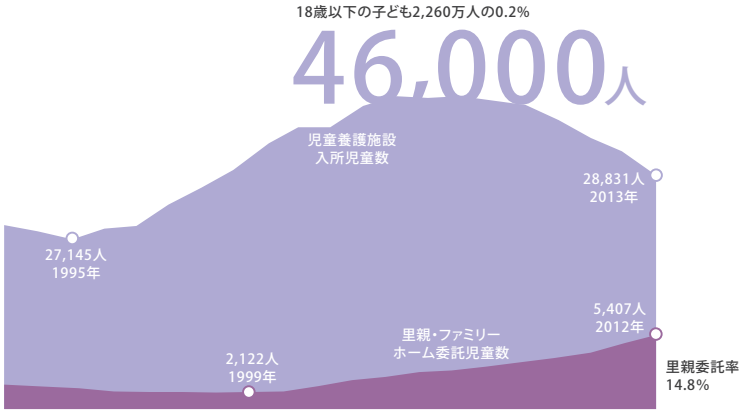
そこで私たち子どもデザイン教室では、親と暮らせない子どもたちが措置解除後に自立生計できるよう、2007年から3つの支援をしています。それは、①学習支援：子どもたちの将来を設計する力を造形活動を通して長期的に支援する「子どもデザイン教室」、②学資支援：企業や商品のキャラクターを子どもたちと創作し、その収益金の一部を子どもたちの生活資金にする「子どもデザインビジネス」、③養育支援：親と暮らせない子どもたちを養育里親として育てる「子どもサポートホーム」の3つです。

この支援の独創性は、幼少期から措置解除時まで一貫して子どもたちを見守り、子どもたちの自立心（将来を設計する力）を育てる点にあります。子どもは未来からの贈りものです。しかし、日本の社会保障費約103.5兆円のうち、家族への支援費は約5％です。少子化、財政難、資源のない日本において、おとなになってから税金で保障するより、子どもの頃から内的資本を育てた方が遥かに効率がいいと考えます。児童養護施設や里親委託では衣食住は保障してくれますが、措置解除後のビジョン（将来を設計する力）までは保障してくれません。私たちはそうした子育てに不足する部分を地域コミュニティの一員として補完することで、よりよい次世代を育ててよりよい未来を託そうと考えました。

私たちは親と暮らせない子どもたちが『生まれてきてよかった』と思える社会に、デザインの力（将来を設計する力）で変えられると信じています。

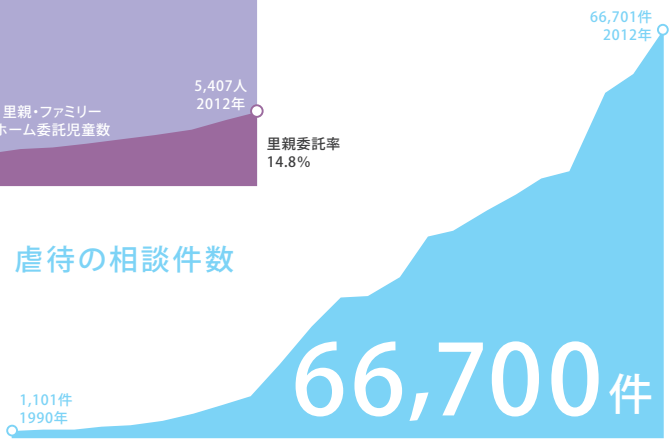
活動の背景

親と暮らせない子どもたちの数



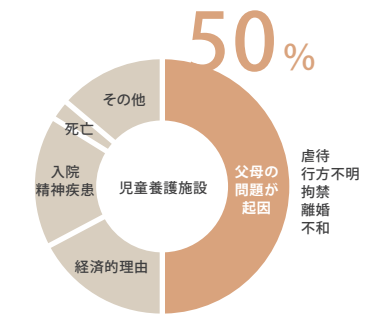
出典：厚生労働省（2014）『社会的養護の現状について』

虐待の相談件数



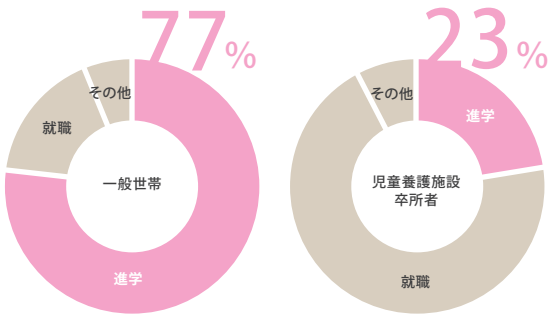
出典：厚生労働省（2014）『養護児童などの実態～養護児童等実態調査結果報告書』

児童養護施設入所理由



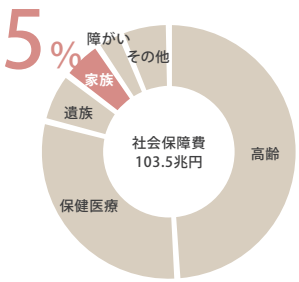
出典：厚生労働省（2014）『社会的養護の現状について』

大学・専修学校進学率比較



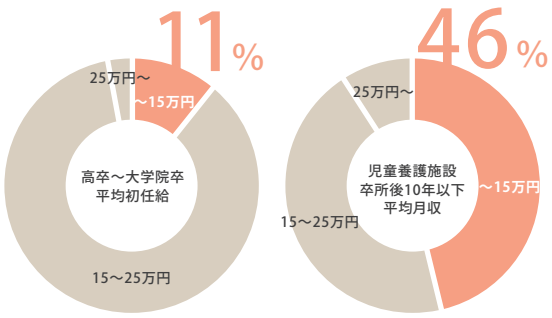
出典：厚生労働省（2014）『社会的養護の現状について』

機能別社会保障費



出典：国立社会保障・人口問題研究所（2010）
『社会保障費用統計』

収入状況比較

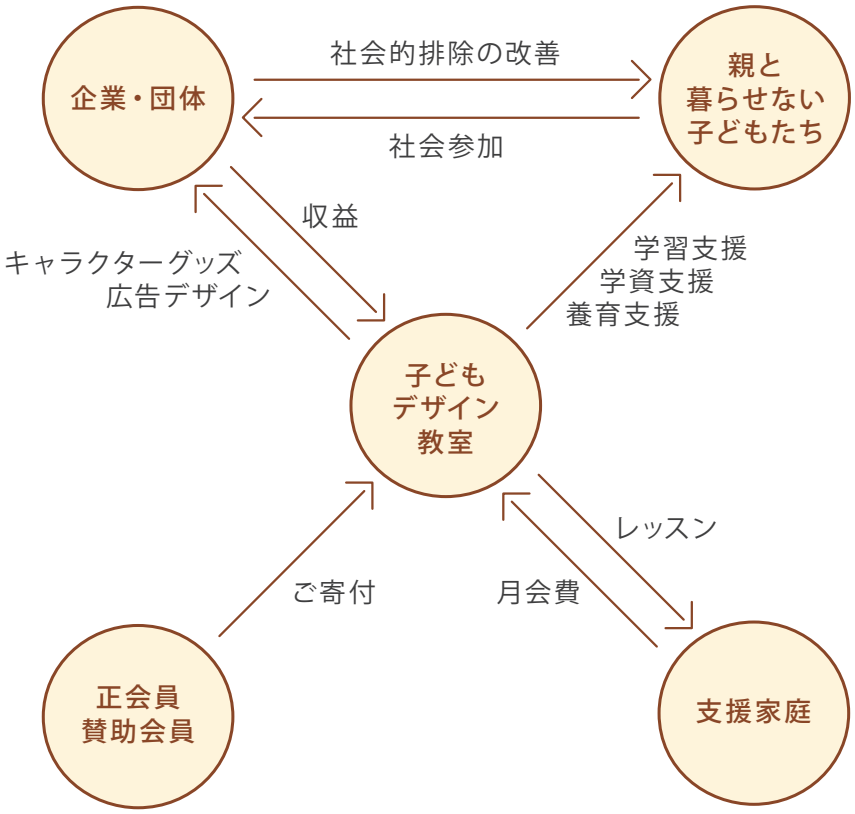


左図出典：厚生労働省（2013）『賃金構造基本調査』
右図出典：東京都福祉保健局（2011）『東京都における児童養護施設等退所者へのアンケート調査報告書』

活動の概要

学習支援	学資支援	養育支援
遊びながら学ぶ／NPO法人 **子どもデザイン教室** Children Design Education	キャラクターグッズ **子どもデザインビジネス** Children Design Business	子どもを育てる **子どもサポートホーム** Children Support Home

親と暮らせない子どもたちが
『生まれてきてよかった』と思える社会にします。



施設向け子どもデザイン教室事業【遊び×学ぶレッスン】

概要　親と暮らせない子どもたちの多くは、頼れる身寄りやお金、知識が少ないまま、概ね18歳で自立を余儀なくされます。このことが貧困や就職難といった社会的排除問題に繋がっています。このため、児童養護施設の子ども向けに無料で「遊び×学ぶレッスン」を開催し、想像力・コンピュータ技能・学力の向上をテーマに「将来を設計する力」の育成をしました。

内容　04月＝絵本制作、短編アニメ制作、長編アニメ制作、お花見パーティ開催
05月＝短編アニメ制作
06月＝工作 不思議の国の世界遺産制作、カリキュラム化開始
07月＝工作 不思議の国の世界遺産制作、1日デザイン教室開催
08月＝工作 不思議の国の世界遺産制作、
09月＝工作 不思議の国の世界遺産制作、全アニメ編集・完成
切り絵 お部屋のインテリアを作ろう制作
10月＝算数カルタ わかるかなかるた制作、こどもCGコンテストに多数入選
11月＝つりゲーム制作、児童養護施設 常照園バザーに出店
12月＝つりゲーム制作、クリスマスパーティ開催
01月＝つりゲーム制作、ピクチャーブック（絵本）制作
02月＝ピクチャーブック（絵本）制作
03月＝ピクチャーブック（絵本）制作

成果　年96回の開催　延べ366人の受講　満足度77%
①想像力・コンピュータ技能が向上しました。
②子どもたちとの信頼関係が高まり、特に子どもたちの居場所感が強まりました。

課題　①非営利事業のため、レッスンの開発・運営費用が不足しました。
②多人数でのレッスンが適さないため、受講生の数が限られました。
③地理的な問題で、遠方の児童養護施設から子どもを集めることが困難でした。
④最長12年の長期支援に対して、2人が中学入学時に家庭復帰、クラブ活動で辞めました。

施設向け子ども絵本教室事業【絵本作りレッスン】

概要　親と暮らせない子どもたちの多くは、複雑な経験から自尊感情が低い傾向にあります。自尊感情は健全な心身の成長に欠かせない感情です。そこで児童養護施設・母子生活支援施設・里親委託の子ども向けに無料で「絵本作りレッスン」を開催し、子どもたちの自尊感情の向上をめざしました。絵本作りは内包する複雑な思いを視覚化・外部化することができ、気持ちを安定させるアートセラピー効果も期待できます。絵本作りを通してできる自分に出会い、自信をもつきっかけ作りをしました。＊ファザーリンクジャパン「タイガーマスク基金」助成事業

内容　04月＝企画開始
05月＝児童養護施設などへ趣旨説明
06月＝第1回　オリエンテーション、基本練習、模写
07月＝第2回＋補講　基本練習、模写
08月＝第3回　キャラクター作り、テーマ作り
09月＝第4回＋補講　あらすじ作り
10月＝第5回＋補講　原稿作り、絵本1・2枚目制作
11月＝第6回＋補講　原稿作り、絵本2・3枚目制作
12月＝第7回　原稿作り、絵本3・4枚目制作
01月＝第8回＋補講　絵本4枚目・表紙制作
02月＝第9回＋補講　絵本表紙制作、文字入力
03月＝第10回＋補講　絵本画像修正・文字配置、模写、問題解決レッスン
＊04月・05月のレッスンは平成26年度に開催

成果　年20回の開催　延べ155人の受講　満足度70%
①対話力・創造力・集中力が高まり、開催前に比べて自尊感情が向上しました。
②違う施設の子ども同士が友だちになるなど、子どもたちにとって新しい居場所となりました。
③認定NPO法人日本情報技術取引所による昼食のご提供や、延べ140人（05/03まで）のボランティアスタッフにご参加頂くなど、ネットワークが広がりました。

課題　①非営利事業のため、助成金は頂きながらもレッスンの開発・運営費用が不足しました。
②多人数でのレッスンが適さないため、受講生の数が限られました。
③地理的な問題で、遠方の児童養護施設から子どもを集めることが困難でした。

一般向け無料体験教室事業【ゆるキャラレッスン】

概要　複雑な現代社会で子どもたちは精神的に萎縮しがちです。そこで東住吉区の子ども向けに無料で「ゆるキャラレッスン」を開催し、想像する喜びを体感し、心身の健全な育成をめざしました。また、このイベントには子どもデザイン教室を周知し、東住吉区民の支援者（賛助会員）を増やす狙いもありました。＊大阪市東住吉区地域福祉活動推進事業

内容　11月＝企画開始
12月＝東住吉区の小・中学校へ趣旨説明
01月～03月＝ゆるキャラ作り、葉書制作

成果　年8回の開催　延べ32人の受講　満足度95%
無から有を生み出す喜びや驚きを提供し、子どもデザイン教室のよさを周知することができました。

課題　①子どもの満足度に反して、保護者は有料教室の受講を希望しませんでした。その原因は塾のような即効性がないことと、デザインという新しい価値観に対する理解が足りないことが考えられます。

一般向け子どもデザイン教室事業【遊び×学ぶレッスン】

概要　親と暮らせない子どもたち同様、一般家庭の子どもたちもまた、将来の見通しが利きにくい状態にあります。このためには様々な問題を解決する方法を学び、自分の将来を設計できる力が必要です。そこで近隣家庭の子ども向けに有料で「遊び×学ぶレッスン」を開催しました。この事業には近隣家庭の支援者（賛助会員）を増やし、収益性を向上する目的も兼ねています。年285回の開催で、延べ864人が受講し、満足度は77%でした。

一般向けおとなデザイン教室事業【フリーテーマレッスン】

概要　複雑な現代社会でおとなもまた精神的に萎縮しがちです。そこで近隣のおとな向けに有料で「フリーテーマレッスン」を開催しました。受講生の多くは絵本作りに取り組み、想像する喜びを体感しました。絵本作りは内包する複雑な思いを視覚化・外部化することができ、気持ちを安定させるアートセラピー効果も期待できます。絵本作りを通してできる自分に出会い、自信をもつきっかけ作りをしました。この事業には近隣の支援者（賛助会員）を増やし、収益性を向上する目的も兼ねています。年72回の開催で延べ185人が受講し、満足度は75%でした。

ファンドレイジング事業【賛助会員募集】

概要　児童養護問題はまだまだ社会の認知度が低い問題です。また、法人経営の安定こそがミッションの達成に繋がります。そこで児童養護問題を社会に啓発し、社会の支援者（賛助会員）を増やすことを考えました。そこで大阪南ロータリークラブ様の卓話会での講演会や、助成金の申請、物品提供、賛助会員の募集をしました。

内容　04月＝エイサー様からWindows8 コンピュータの寄贈
07月＝全労済様からAdobeデザインコレクションCS6×2台・絵本161冊寄贈助成
08月＝日立製作所 親切会様からオリンパス ミラーレス一眼レフカメラの寄贈
大阪南ロータリークラブ様からMacBook Air×2台の寄贈
インターネット寄付システムGooddo様による寄付
10月＝大阪南ロータリークラブ様の卓話会で講演
11月＝大阪市塾代助成事業に選定
01月＝西村ちさ様から大量の画材のご寄付

成果
賛助会員 134 人　講演会 1 回の開催
物品 72.5 万円　寄付金 91.9 万円

課題　①広報スタッフが不足し、支援の輪が想定通り広がりませんでした。
②賛助会員が前年度の185人から本年度の134人に減りました。
③費用対効果を勘案した上での事業展開が必要でした。

子どもデザインビジネス事業【こどキャラプロジェクト】

概要　児童養護問題はまだまだ社会の認知度の低い問題です。そこで概ね18歳で自立する子どもたちの新しい支援システムを提唱するため、講演会・展示会・SNSでの広報・営業活動をしました。さらに「こどキャラ」の受注・制作をすることで、児童養護問題を社会に啓発し、親と暮らせない子どもたちの生活資金供給システムの運営を実施しました。

内容　04月＝大阪ガス
05月＝はぐくむ
06月＝綿屋デザインファクトリーの広告デザイン事業を統合
06月＝そば処 山久
08月＝甲南埠頭
10月＝大阪勧業展2013に出展

成果
受注 97.2 万円
社会の賛同が広がり、生活資金供給システムが動き始めました。

課題　①営業スタッフの不足により、営業していない大手企業が多数ありました。
②子どもの作品という商品性の問題からデザイナーの協働が不可欠でした。

広告デザイン事業【綿屋デザインファクトリー】

概要　経営を安定させるために広告デザイン業務の受注・制作は不可欠です。そこで経営の効率化を考え、法人格を子どもデザイン教室に統合しました。

内容　06月＝（有）綿屋デザインファクトリーを事業統合
07月～03月＝法人各社の広告物の制作・印刷

成果
受注 444.7 万円
最低限の活動資金が確保できました。

課題　営業・制作スタッフが不足しました。

子どもサポートホーム事業【子どもサポートホーム】

概要　社会的養護問題はまだまだ未開です。一方で現代社会で共同体のあり方が変容しています。このような社会状況で、小規模住居型児童養護施設であるファミリーホームはこれからの社会的養護のあり方、新しい共同体のあり方と考えられます。そこで代表理事が個人事業として自宅近くの賃貸住宅でファミリーホームの試行として2人の子どもの里親をしました。こうして社会的養護の実践と新しい家族の形を提唱し、ファミリーホーム設立の準備をしました。しかし、家族中心のファミリーホームでは6人もの子どもの十分な養育は困難であること、家族全員の積極的な賛同がないとファミリーホームは設立できないことから、その設立をいったん断念することにしました。

広報活動

内容　04月21日　毎日新聞・大阪版 朝刊
06月　大阪市ボランティア市民活動センター・COMVO 7月号
07月29日　関西テレビ・スーパーニュースアンカー

科目				金額		
経常収益の部	1 受取会費		正会員受取会費	9,000		
			受講会員受取会費	1,665,850	1,674,850	
	2 受取寄付金		受取寄付金		919,062	
	3 受取助成金等		全労済助成金	300,000		
			タイガーマスク助成金	300,000	600,000	
	4 事業収益		子どもデザイン教室事業収益	59,738		
			子どもデザインビジネス事業収益	972,580		
			子ども絵本教室事業収益	51,000		
			広告デザイン事業収益	4,447,546		
			管理部門	500	5,531,364	
	5 その他収入		受取利息	979		経常収益合計
			雑収入	1,644	2,623	8,727,899
経常費用の部	1 事業費	人件費	給料手当	638,250	638,250	
		その他経費	外注費	999,968		
			荷造運費	37,370		
			広告宣伝費	107,824		
			会議費	2,975		
			旅費交通費	145,980		
			通信費	22,940		
			消耗品費	703,966		
			新聞図書費	164,013		
			車両費	7,400		
			賃借料	18,400		
			租税公課	1,450		
			支払手数料	8,950		
			保険料	49,070	その他経費計	
			仕入高	187,895	2,458,201	
	2 管理費	人件費	役員報酬	1,037,232		
			給料手当	1,581,250	人件費計	
			法定福利費	420,314	3,038,796	
		その他経費	外注費	111,343		
			荷造運費	14,413		
			交際費	11,308		
			会議費	55,131		
			旅費交通費	75,330		
			支払利息	48,161		
			通信費	260,705		
			消耗品費	525,178		
			新聞図書費	15,968		
			車両費	1,200		
			地代家賃	855,000		
			賃借料	1,400		
			租税公課	2,600		
			諸会費	15,000		
			支払手数料	19,218	その他経費計	経常費用合計
			雑費	295,230	2,307,185	8,442,432
正味財産増加の部	当期経常増減額					285,467
	当期正味財産増減額					285,467
	未払い法人税等					52,500
	前期繰越正味財産額					3,668,530
	当期繰越正味財産額					3,901,497

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

第5章
平成25年度の貸借対照表

科目			金額		
資産の部	流動資産	現金預金	4,682,742		
		売掛金	823,200		
		短期貸付金	60,363		
		未収入金	11,215		
	流動資産合計			5,577,520	
	資産合計				5,577,520
負債の部	流動負債	預り金	10,654		
		買掛金	37,869		
		未払法人税等	52,500		
	流動負債合計			101,023	
	固定負債	長期借入金	1,575,000		
	固定負債合計			1,575,000	
	負債合計				1,676,023
正味財産の部	前期繰越正味財産			3,668,530	
	当期正味財産増加額			232,967	
	正味財産合計				3,901,497
	負債及び正味財産合計				5,577,520

第5章
平成25年度の役員体制

役職	氏名
理事	和田 隆博（わだたかひろ）
理事	深野 優子（ふかのゆうこ）
理事	山本 悦二（やまもとえつじ）
理事	坂部 勝則（さかべかつのり）
理事	安田 信太郎（やすだしんたろう）
監事	今中 博之（いまなかひろし）

平成26年度 活動計画書

デザインの力で、きっと社会は変えられる。

［2014.08.31／01］

親と暮らせない子どもたちを支援する
特定非営利活動法人
子どもデザイン教室
Children Design Education

☎06-6698-4351
〒546-0035 大阪市東住吉区山坂4-5-1
06-6698-4352 wada@c0d0e.com
www.c0d0e.com

これからの活動の概要

和田 隆博

DE

学びの支援

デザイン教室部門

Design Education

①遊び×学ぶレッスン
②講師育成プログラム
③説明会・展覧会

林田 全弘

FR

お金の支援

ファンドレイジング部門

Fund Raising

①寄付システム
②生活支援システム
③講習会

大和 真理子

AD

広告デザイン部門

Advertising Design

①デザイン無料相談
②ホームページ
③印刷物

和田 隆博

SH

育ちの支援

サポートホーム部門

（個人事業）

Support Home

①養育里親

CG

溝江 淳子

法人管理部門

Corporate Governance

①経営管理
②会計管理
③労務管理
④事業所移転

↓

**親と暮らせない子どもたちが
『生まれてきてよかった』と思える社会にします。**

縁あって巡り会った子どもがいつか『生まれてきてよかった』と思えるように。また、世の中の人々が児童養護について関心をもってもらえるように、1日1日を大切にし、後継者を育て、ミッションを達成します。

代表理事・和田隆博の略歴

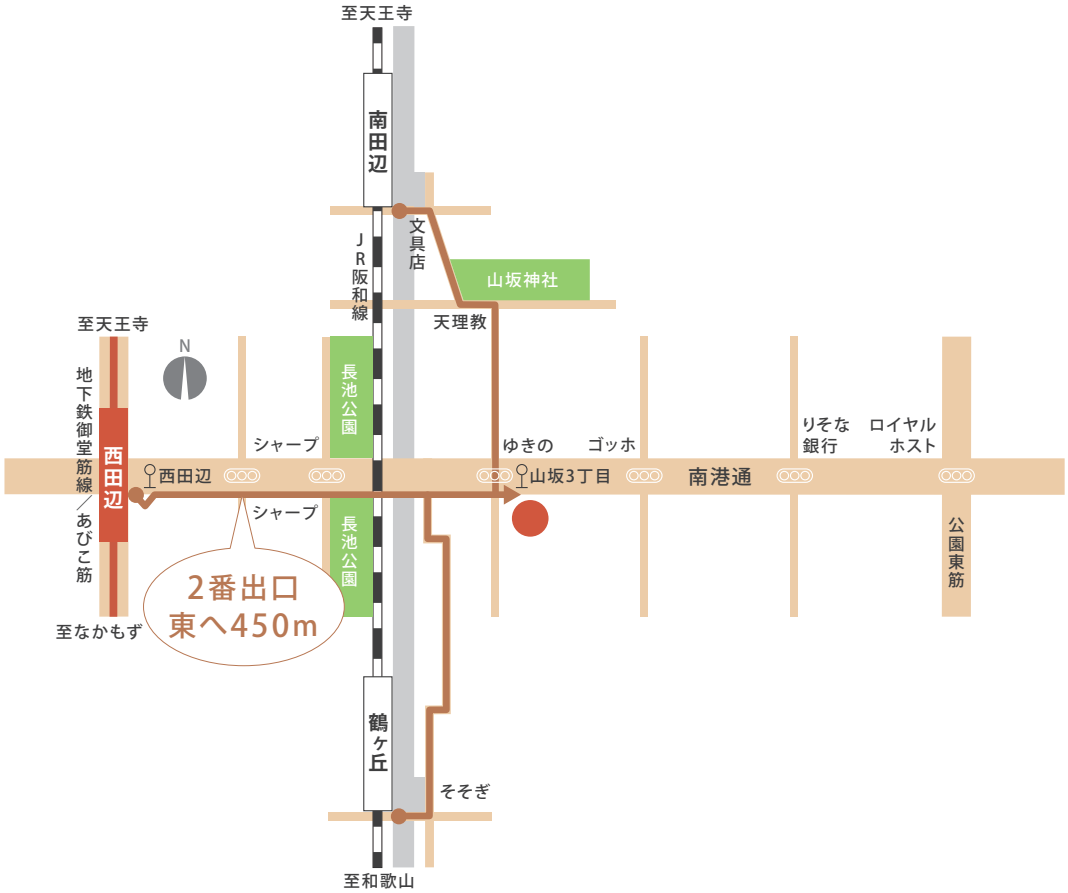
○1961年、大阪生まれ○大阪市立大学商学部 卒業○大阪市立扇町総合高校 講師
○大阪市立デザイン教育研究所 講師○大阪商工会議所 会員○大阪里親会 理事
○ソーシャルデザイナー

経営管理／会計管理／労務管理

概要　経営管理、会計管理、労務管理を別部門とし、効率的な経営をめざします。

事業所移転

概要　子どもサポートホームの生活拠点を旧事業所所在地に移転するため、子どもデザイン教室の活動拠点を下記所在地に移転します。新しい事業所は旧事業所の2倍の面積で、交通アクセスも大変便利です。施設名称は「子どもとおとなのデザイン教室」としました。これを機会に受講生を増やし、様々な人々が交流するデザインと児童養護のコミュニティ拠点にします。



施設名称　the Design Education for All Ages codoe

遊び×学ぶレッスン＆絵本・アニメ・パソコン
子どもとおとなのデザイン教室
NPO法人 子どもデザイン教室

遊び×学ぶカリキュラム「施設子ども向けお店作りレッスン」

概要　親と暮らせない子どもたちの多くは、頼れる身寄りやお金、知識が少ないまま、概ね18歳で自立を余儀なくされます。このことが貧困や就職難といった社会的排除問題に繋がっています。こうした子どもたちが小さい頃から問題を解決する習慣を身につけておけば、様々な困難に立ち向かえる勇気になります。親と暮らせない子どもたちは心に深い傷を負っている場合があり、こうした子どもたちには施設だけでは支援しきれないメンタル面のケアも必要です。そこで児童養護施設の子ども向けに無料で「お店作りレッスン」を開催します。このレッスンでは子どもたちは商品を企画・製造し、販売する方法を体験し、様々な問題を解決する手順を学びます。こうした体験を習慣化し、問題解決力＝自分の将来を設計する力を身につけていきます。このレッスンは毎週土曜日2時間・1年96回開催します。（受講生の都合で近隣家庭の子どもたちが混合することがあります。）

この遊び×学ぶレッスンのポイントは、①無理なく課題に取り組める環境を作り、問題解決の基本である想像力と対話力を身につける点、②自信と自尊感情を育てるアートセラピーの場を提供する点、③造形とコンピュータ技能も身につける点にもあります。1ヶ月16人・1年延べ192人の受講生を受け入れます。

遊び×学ぶカリキュラム「施設子ども向けこどキャラレッスン」

概要　親と暮らせない子どもたちの多くは、頼れる身寄りやお金、知識が少ないまま、概ね18歳で自立を余儀なくされます。このことが貧困や就職難といった社会的排除問題に繋がっています。こうした子どもたちが小さい頃から問題を解決する習慣を身につけておけば、様々な困難に立ち向かえる勇気になります。親と暮らせない子どもたちは心に深い傷を負っている場合があり、こうした子どもたちには施設だけでは支援しきれない自己肯定感の支援も必要です。そこで児童養護施設・母子支援施設・里親委託の子ども向けに無料で「こどキャラレッスン」を開催します。このレッスンでは、子どもたちは企業から依頼を受けた商品のキャラクターをプロのデザイナーと一緒に創作し、できあがったキャラクターを企業に販売し、後述18ページの生活支援システムに繋げています。

レッスンは各回単発のため、毎月違う子どもが受講してもよく、時折「ケイドロ」など、遊びの問題解決レッスンもします。レッスンは毎月第3土曜日2時間・1年12回開催します。

このレッスンのポイントは、無理なく課題に取り組める環境を作り、自信と自尊感情を育てるアートセラピーの場を提供する点です。8施設から1ヶ月8人・1年延べ96人の受講生を受け入れます。

遊び×学ぶカリキュラム「一般子ども向けお店作りレッスン」

概要　親と暮らせない子どもたち同様、一般家庭の子どもたちもまた将来の見通しが利きにくい状態にあります。そこで近隣家庭の子ども向けに有料で「お店作りレッスン」を開催し、商品を企画・製造し、販売する方法を体験し、様々な問題を解決する手順を学びます。このレッスンは毎週火曜日・木曜日各2時間・1年192回開催します。（受講生の都合で児童養護施設の子どもたちが混合することがあります。）

遊び×学ぶカリキュラム「一般おとな向けフリーテーマレッスン」

概要　複雑な現代社会でおとなもまた精神的に疲弊しがちです。そこで近隣家庭のおとな向けに有料の「フリーテーマレッスン」を開催します。内容は絵本作りを中心とし、アートセラピー効果が期待されます。このレッスンは毎週金曜日1時間・1年48回開催します。

講師育成プログラム

概要　子どもデザイン教室の活動を全国展開する足がかりに講師育成プログラムを始めます。講座は、①子どもデザイン教室のレッスンを体験する3級、②子どもデザイン教室のレッスン講師になれる2級、③子どもデザイン教室の運営ができる1級の3コースに分かれています。毎週土曜日に開催の予定です。

説明会・展覧会

概要　子どもデザイン教室の活動を近隣のご家庭に広めるために年4回程度、活動を紹介する説明会を開催します。また、期末には子どもたちの作品の展覧会も開催の予定です。

第9章
ファンドレイジング部門の活動計画

寄付システム／生活支援システム／講習会

概要　親と暮らせない子どもたちの多くは、頼れる身寄りやお金、知識が少ないまま、概ね18歳で自立を余儀なくされます。このため社会からの支援は不可欠です。そこでこうした子どもたちを支援する寄付システムを確立し、親と暮らせない子どもたちのレッスン費用156万円を捻出します。また、生活支援システムを構築し、初年度24万円以上の生活資金を供給します。このため、講習会を通して目標240人の方と面談し、寄付者（賛助会員）、物品提供、助成金の賛同を増やしていきます。

第10章
広告デザイン部門の活動計画

デザイン無料相談／ホームページ／印刷物

概要　企業業績の向上に寄与し、子どもデザイン教室の運営資金を捻出するために広告デザインの制作業務を受託します。その方法はインターネットによるデザイン無料相談をし、顧客を募り、ホームページの制作、印刷物の制作に繋げていきます。こうして年600万円の活動資金を調達します。

第11章
サポートホーム部門の活動計画（個人事業）

養育里親

概要　社会的養護問題はまだまだ未開です。一方で現代社会で共同体のあり方が変容しています。そこで代表理事の個人事業として、代表理事の自宅1階を子ども部屋に改装し、長期・短期を問わず常時2人の子どもの養育里親になります。また、新しい養育技術（コモンセンス ペアレンティング）を会得し、新しい社会的養護のあり方、新しい家族のあり方を提唱していきます。

科目			金額		
経常収益の部	1 子ども向けレッスン		1,920,000		
	2 おとな向けレッスン		336,000		
	3 講師育成プログラム		336,000		
	4 ファンドレイジング部門		1,800,000		経常収益合計 10,392,000
	5 広告デザイン部門		6,000,000		
経常費用の部	1 人件費	給料手当	3,961,660		
		外注費	1,190,400	人件費合計 5,380,060	
		法定福利厚生費	228,000		
	2 その他経費	荷造運費	50,000		
		交際費	60,000		
		会議費	60,000		
		宣伝広告費	1,100,000		
		旅費交通費	120,000		
		支払利息	50,000		
		通信費	280,000		
		消耗品費	1,200,000		
		新聞図書費	40,000		
		地代家賃	972,000		
		光熱費	720,000		
		租税公課	4,000		
		諸会費	15,000		
		支払手数料	30,000		
		保険料	50,000	その他経費計 4,991,000	
		仕入高	240,000		
	3 移転費用	改装費	2,500,000		
		賃貸契約費	306,000		
		電化製品費	10,000	移転費用計 2,916,000	経常費用合計 13,287,060
		引越費用	100,000		
経常収支の部	経常収益合計				10,392,000
	経常費用合計				13,287,060
	経常収支				▲ 2,895,060

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

自分の将来が設計できる人

最初はお話もできなかった子どもも、ほとんど創作意欲のなかった子どもも、何かにせかされるように落ち着きがなかった子どもも、しんどい～とお疲れモードの子どもも、レッスンの終わりにはイキイキとして帰っていきます。子どもデザイン教室は子どもたちにとってアートセラピーの場でもあります。素直にすくすくと育つ子どもが多い中、やはりしんどい荷物を抱えた子どもも確かにいます。この1年間、児童養護施設をはじめ、たくさんの子どもとの交流を続けてきました。私自身、教えられることの多い一年でした。

よく『なぜ子どもデザイン教室をするのですか？』と聞かれます。理由がありすぎて答えに困るのですが、一つ特に強く思うのは『子どもの可能性が好きだから』です。経済の縮小、少子化、財政難といった日本の問題は私たちの日常生活に大きく関わっています。ここ20年で情報化社会が加速し、社会は大きく変化しています。しかし、学校や家庭では懐かしい昭和の成長が忘れられないのか『いい学校に、いい会社に』と既成概念を捨てきれずにいます。価値がお金中心に置き換えられた時代はとうに終わっているのです。

コンピュータの発達とともに、情報が瞬時に世界を行き交う時代です。それは誰もが想像以上のチャンスを捉えられる時代でもあります。こうした時代に「デザイン的な思考をする」ということはとても重要です。デザインとは見た目の美しさやかっこよさだけではありません。人や社会に便益をもたらしたり、目的を計画的に推進する企画・設計力のことです。

このデザインという普遍的な技術力、論理思考を小さい頃から習慣づけておけば、あらゆる社会の変化や状況に対応できる「デザイン思考のできる人」になれると考えています。それはテストの成績では判定できない力です。私が子どもたちに指し示しているのは「自分の将来が設計できる人」になることです。

特定非営利活動法人子どもデザイン教室
代表理事 和田隆博